

2002年(平成14年)9月20日

---

# アイヌタイムズ第22号日本語版

---

---

## ★ ソコニ (エゾニワトコ)

ソコニは匂いが強いので、悪い神も流行病の神もそれを嫌がると言われていました。

幌別では、この木で木幣を作りました。

樺太では、この木の枝で人形を作り、子供の着物の帯に結びました。これが子供を守るものだと考えられたのでしょう。これは、「セニシテ・ニポポ」とか「ソコニナンコロペ」と言われました。

青木愛子さんは次のように言っています；

フイペ（腎臓、肝臓）が元気のない時は、ソコニの内皮を煎じて、その汁を飲ませると良くなると思います。秋になるとソコニの皮をはいで、干しておきました。

川上シンさんは次のように言っています；

煎じるときは、葉っぱと若い茎（枝）を入れ

ました。腰がひどく痛いときは、ソコニの湿布を使います。煮立たせて布を巻きました。

「知里真志保 分類アイヌ語辞典」には、こう書かれています；

樺太では、石を焼いて、水に浸した木の皮で包んで、腫れたところに付けたといいます。

ソコニは、北海道、サハリン、南千島、本州中北部、朝鮮半島、中国東北部に生えています。山に生えます。

乾燥したソコニは漢方では接骨木（せっこつぼく）と呼ばれるもので、乾燥した葉は接骨木葉（せっこつぼくよう）と呼ばれるものです。

接骨木で骨が折れた所を直したり、腫れたところも痛むところもよくしたり、そしてやけどしたところを直したりしました。さらに、小便

づまりしたとき飲むと良いといわれています。

腎炎、関節リウマチ、痛風と呼ばれる病気も治すものです。

接骨木の中には、オレアノール酸、 $\beta$ -アミリンパルミテート、 $\alpha$ -アミリン、ウルソール酸というものがあります。

接骨木葉の中にはサンプルシンというものが

あります。

若芽は食べられますが、下痢をする人もいるので注意してください！

果実は食べられます。それで作った果実酒はおいしいといわれています。

[横山 裕之] 沙流・千歳

アイヌタイムズ第22号日本語版 (季刊)

発行所	アイヌ語ペンクラブ 〒055-0101 沙流郡平取町二風谷 80-25
発行責任者	野本 久栄
編集責任者	浜田 隆史
日本語版担当	稲垣 克彦